

平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果について

平成28年11月8日

岡谷市教育委員会

「全国・学力学習状況調査」は、文部科学省が今後の教育施策の展開や教育活動の改善に役立てるため、全国の小学校6年生、中学校3年生を対象に毎年実施する調査です。

1. 調査の目的（文部科学省による調査）

- ① 国の義務教育の機会均等と教育水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ③ そのような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

●【教科に関する調査】（国語、算数・数学）

主として「知識」に関する問題（A）	主として「活用」に関する問題（B）
-------------------	-------------------

●生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に関する調査	学校に関する調査
------------	----------

3. 分析結果（岡谷市学力向上推進委員会による分析の概要）

■教科に関する調査

- 小学校では、各校の授業改善がすすみ、国語A・B、算数A・Bともに県・全国平均を上回り、特に国語Bの力の伸びが著しい結果となっています。
- 中学校では、国語A、数学Aともにほぼ県平均と同程度であり、国語B、数学Bにおいては、授業改善の成果と改善の兆しが見える結果となっています。

■質問紙調査

- 小学校では、「学校へ行くのが楽しい」「自分によいところがある」「学校や友達との約束を守っている」「好きな授業がある」の割合が高い。「自尊意識」、「規範意識」、「学習（国・算・総合）に関する関心・意欲・態度」等の高まりにつながっていることがうかがえます。
- 中学校では、「将来の夢や目標を持っている」「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある」「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」「国・数の勉強が好き、大切だと思う」の割合が高い。「自尊意識」、「学習（国・数）に関する関心・意欲・態度」等の高まりにつながっていることがうかがえます。

4. 今後の課題

- ◇ 小学校では、自分の考えが伝わるよう、資料や文章、話の組み立てを工夫して発表したり、感想文・説明文・自分の考えを書いたりする力を更に伸ばしたい。
- ◇ 中学校では、小学校の課題に加え、自分で計画して行う家庭学習の時間を増やしたい。

分析結果をもとに、今後の学力向上策、各校の教育活動の改善に活かしてまいります。

伸びる岡谷の子

新聞、テレビ・インターネットのニュースから興味や関心を抱いた地域・社会で起こっている問題や出来事を、授業で語る子どもが増えてきました。

「朝食を食べて登校する」や、「起床・就寝時刻が一定」など、基本的な生活習慣が確立している子が引き続き多いのは、家庭の協力の賜物ですね。



A先生

話し合い活動の中で、友の意見に耳を傾け、自分の考えと比べながら意見をまとめている子が多いですね。

覚えることと考えることを、はっきりさせ、子どもたちが課題を解決していく学習にしていかなければいけませんね。そのために、討論や発表などの言語活動を重視した授業を創っていきたいです。

先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え取り組むことに充実感を感じている子が増えてきました。



B先生

学習の基礎・基本が定着するように、宿題の他に、自分で計画を立てた学習を行い、粘り強く家庭学習に取り組める子にしていきたいですね。

今後の取り組みについて

- ① 授業の内容と結び付けた家庭学習や自分で計画し取り組む家庭学習をすすめ、目的意識をもち学習時間が今より多くなる学習内容の工夫をする。
- ② 推薦する本の紹介をするなどし、様々なジャンルの読み物に触れたり、本に親しむ機会を増やしたりして、読書の時間の充実を図る。
- ③ 「生活科・総合的な学習の時間」において引き続き、体験的探求的な活動を大切にし、自分で課題を立て情報を集め整理し、調べたことを発表するなどし、日常生活で活用が図られるような学習活動に取り組む。また、「岡谷スタンダードカリキュラム」による地域に根ざした学習を実践し、ふるさと「岡谷」に学ぶ学習の充実を図る。
- ④ 中学校区や教科会ごとの小中接続・連携を進め、学習の土台となる学級づくりや授業改善を図る。特に、課題解決的な授業、子どもがかかわり合って発言する授業、考えたり書いたりする時間を確保した授業などにより、自ら考え、自分で調べ、自分の言葉で発表する力の向上を目指し、アクティブラーニングの推進を図る。
- ⑤ 教員の授業力アップに向けては、
 - ・各校の取り組みを参考にして、教員一人一人の授業改善の意識を一層高める。その上で、互いの授業を公開し合って改善に努める。
 - ・校長会、教頭会、市学力向上推進委員会等が中心となり、「現状と課題」の分析を丁寧に行い、授業力アップの方策を講ずる。
 - ・明日の授業に生き子どもに還る教職員研修会や他校他県研修、各種授業研究会の更なる充実を図る。

みすずかる 岡谷市

市町村教育委員会の取組に学ぶ⑪



平成28年6月
No.11
長野県教育委員会
学力向上推進チーム

今年度の全国学力・学習状況調査において、全小中学校の参加による合同採点会を実施し、市を挙げて早期採点に取り組んだ岡谷市教育委員会。岡谷市の学校教育の特長や合同採点会・早期採点の手応えについて、岩本教育長、子ども総合相談センター 花岡統括教育支援主事に聞きました。



岩本博行 教育長

—— 『岡谷のひと』づくりの図（次頁の図参照）は、「行政」、「学校」、「地域」、「家庭」に支えられて「ひと（自己）の力」が光り輝く印象的な図ですね。

岩本教育長：この図は、学校、地域、家庭の力の充実を図り、互いが連携しながら行政と協働することにより、岡谷市子どもたちをみんなで大事に育てようとする、岡谷市が目指す教育の姿を表しています。学校教育では、「生き抜く力と創造力、知的好奇心溢れる心豊かなひとづくり」を目指して、「学校教育5つの重点」（次頁参照）を校長会と共に決め、全小中学校で取組を進めています。

—— 「学校教育5つの重点」の中には、岡谷市ならではの取組がいくつもありますね。

花岡統括教育支援主事：ボランティアに積極的に取り組む地域性を生かした「岡谷版コミュニティスクール」や、教科学習等に地域の特色を盛り込んだ「岡谷スタンダードカリキュラム」など、地域に根ざした学校づくり（重点1）やふるさと「岡谷」に学ぶ授業づくり（重点2）を進め、郷土を愛する心を育んでいこうとしています。また、子ども総合相談センターを中心に、個々の特性に合わせた幼保・小・中・高の連続的支援体制や、小中連携による「いじめ根絶子ども会議」など、笑顔で安心して学べる教育環境整備（重点3）を進めています。いずれの取組においても、「連続」と「連携」を大切にしています。



花岡ひさ江
統括教育支援主事

—— 重点4に関わって、岡谷市では全小中学校の参加による全国学力・学習状況調査の合同採点会を実施し、市を挙げて早期採点に取り組みましたね。どのような手応えを感じていますか。

岩本教育長：これまで調査結果の返却が8月末で、課題が見られた単元の学習がすでに終わっているなど、指導に十分に生かしきれませんでした。今回、県教育委員会から早期採点の提案があり、もし実施するならば全小中学校が同一歩調で取り組んでほしいと校長会に伝えたところ、全小中学校で本気になって取り組もうと、



岡谷市の合同採点会の様子

校長会が中心となり教頭・教務・研究主任など様々な立場の教師がかかわり合同採点会を実施することになりました。採点会参加者からは、「出題の意図がより深く理解でき、子どもの解答状況を直接つかめたことにより、学力向上への課題や授業改善の方向が明確になった」との声もあり、とても頼もしく感じました。このような取組を通して、「学べばできるようになる」という喜びをどの子にも味わわせることが、確かな学力保障と成長保障につながると信じています。

花岡統括教育支援主事：早期採点の結果を基に、5月の学力向上推進委員会で各校の課題と授業改善の方向についての情報交換を行いました。これを受けて各校の学力向上推進プランを修正し、5月中に授業改善に取り組んでいます。6月の教頭会では、各校の伸びてきている点についての情報を共有し、互いの取組のよさに学び合いました。早期採点によって結果を早くつかめることが、どんどんよい方向につながっています。「早期採点が指導の至らなさや偏りを見つける貴重な機会になった」との声もあり、早期採点の意味合いの大きさを感じています。実施してみることで、合同採点会・早期採点がよいのものであると実感できました。

岡谷市教育委員会では、この他にもソーシャルスキルトレーニングやピア・サポート・プログラムの実践などを通して、子どもたちに底力を付けることを大切にしています。「子どもの力は生きていく中で丸ごと付けていくもの」ととらえ、「連続」と「連携」を大切に、市民総ぐるみで子どもたちを育てる仕組みづくりを進める岡谷市教育委員会の今後の取組に期待したいと思います。（文責：教学指導課主幹指導主事 濱野 久）

平成 28 年度 岡谷市教育委員会基本方針（学校教育）

＜学校教育スローガン＞

生き抜く力と創造力、知的好奇心溢れる心豊かなひとづくり

おかや子育て憲章及び岡谷市教育大綱に掲げた教育理念のもと、少子高齢化、グローバル化が進む現代社会の中で、一人ひとりの個性、人格、人権を尊重しながら、個々の能力、適性に応じた教育を推進し、魅力と活力ある学校づくりを推進します。

更に、知識を基盤としながら、思考力・判断力・表現力などの知識を活かす能力を高め、自ら主体的に学び、たくましく生き抜くことのできる力を養います。



＜学校教育 5つの重点＞

1 地域に根ざした特色ある学校づくりの推進

- ・地域に息づき、根付く学校「岡谷版コミュニティスクール」の導入
- ・魅力と活力に溢れる特色ある学校づくり、チーム学校の実践
- ・地域とつくる学校、地域と共にある学校づくりの推進

2 ふるさと「岡谷」に学ぶ学習の推進

- ・ものづくりなど、地域資源を活かした普遍的な学習「岡谷スタンダードカリキュラム」の構築
- ・岡谷の『ひと・もの・こと』に誇りと自信を持つ「ふるさと教育」の推進、郷土を愛する心の醸成

3 笑顔で安心して学べる教育環境の整備

- ・一人ひとりの特性に合わせた学校生活支援、小・中学校と幼稚園・保育園との連携
- ・小・中・高の枠を超えた連続的、横断的な教育支援体制の構築
- ・子どもたちによる「いじめ根絶運動」の取り組みの継続
- ・地域との連携によって、笑顔で安心して学べる、安全・安心の教育環境の提供、防災教育の充実

4 確かな学力保障と成長保障を図る授業改善

- ・確かな学力保障と成長保障を図る授業改善
- ・ユニバーサルデザイン化を軸に「わかる、できる」授業の実施、家庭学習の工夫を通じた学力向上
- ・全員が力を発揮し、認め合える学級づくり、一人ひとりの子どもに合わせた特別支援教育の推進

5 「自立と共生」につながる教育活動の充実

- ・生き抜く力を育む教育、道徳教育、心の教育の充実
- ・将来の目標と学業を結び付けるキャリア教育の推進
- ・アクティブ・ラーニング、ソーシャルスキルトレーニング(SST)、ピア・サポート・プログラムの実践
- ・自立と共生につながる教育活動の充実、児童生徒会の自治推進

